

## 大槌発

## 「貫通式」高校生が見学



震災復興に大きな役割が期待される三陸沿岸道路の一部となる釜石山田道路の大槌第一トンネルの工事で貫通式が行われ、地元・大槌高校生たちが立ち会いました。長さ256mのトンネルは大槌高校のすぐそばにあり、貫通式見学は今後の復興の励みにしてもらおうと行われました。貫通した大槌第一トンネルを含む釜石山田道路は延長23キロの自動車専用道路で完成すると津波浸水地域を回避して釜石と山田町の間を通行でき、新たな観光ルートの誕生も期待されています。(2/25 ニュースエコー)

## 陸前高田発

## 「奇跡の一本松」万年筆

スイスに本拠を置くリシュモングループの筆記具ブランド・モンブランが、奇跡の一本松の材木を使った万年筆「マイスターシュテック奇跡の一本松」を日本限定で発売します。今回の商品化は、



実際の枝を使った高級万年筆を製作し、後世に語り継がれる形で遺していきたいと陸前高田市が要望し、実現しました。ドイツ・ハンブルグに持ち込まれた松の枝は熟練の職人の手で特別限定品として仕上げられました。万年筆は限定113本が発売され、売上の一部が陸前高田市に寄付されます。製品第一号は、復興支援活動に取り組んでいるプロフィギュアスケーターの安藤美姫さんから戸羽市長に贈られました。万年筆は、3月11日から全国のモンブランショップや公式オンラインショップで販売されます。(2/25 ニュースエコー)



## 陸前高田発

## 復興フォト&amp;スケッチ展

東日本大震災から復興していく街の風景を写真や絵にした作品展が陸前高田市で開かれています。「復興フォト&スケッチ展」は市街地の整備などを行う独立行政法人・UR都市機構が企画したもので、被災した岩手、宮城、福島町の姿を切り取った作品を募集しました。271点の応募の中からフォト部門の大賞に選ばれた福島県いわき市の石森文夫さんの作品は仮設住宅の庭に干された靴をメインに撮っていて家族が復興に向かって歩む姿が伝わってきます。スケッチ部門の大賞、陸前高田市の吉田征輝さんの作品はベルトコンベアが土砂を運搬する姿が繊細なタッチで描かれています。今後、盛岡市のアイーナなど県内6会場で巡回展示が行われます。(3/2 ニュースエコー)



## 宮古発

## さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週はみやこハーバーラジオの箱石文彦さんが、日本野鳥の会宮古支部が毎月1回行っている「探鳥会」について伝えてくれました。この時期は白鳥が北へ帰り、代わってオシドリ、アメリカヒドリなどのカモが多く見られるそうです。また国の天然記念物に指定のオオワシやオジロワシなども見られ、港で水揚げされるタラヤアナゴを狙っているそうです。こうした様々な鳥達が見られるようになったのは震災後からといい、津波で流された土地が草地や湿地になった所に餌となる虫や小動物が増えたためだそうです。箱石さんは、「探鳥会」は鳥を通してその背景から見える被災地の「今」を考えてみる良い機会かもしれないと話していました。(3/4)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122